令和５年４月15日発行
第１９４号

東京都区現代俳句協会会報

発行人　今野　龍二
発行所
東京都区現代俳句協会
〒113-0033　文京区本郷5-3-2-302
長谷川はるか
TEL･FAX　03-3814-1228

東京都区現代俳句協会
令和五年度　定時総会
令和五年三月十二日（日）

第一議案　令和４年度事業報告
第二議案　令和４年度収支報告
会計監査報告
第三議案　令和５年度事業計画案
第四議案　令和５年度収支予算案
第五議案　通信部の設立について
第六議案　役員の推薦について

総会は笑いの渦で始まった。司会者が「では閉会の言葉を」と。開会を閉会と言い間違えただけなのだが、これでやや緊張気味だった座の雰囲気が一気に和らいだ。佐怒賀正美副会長の「開会の言葉」に続き、山本敏倖会長の挨拶。話はやはり二ヶ月後に控えた「創立40周年記念大会」のこと。来賓には大本尚神奈川県現代俳句協会副会長、羽村美和子千葉県現代俳句協会幹事長の臨席を賜った。参加者45名。

総会が開会されるに当たり、議長に加藤右馬氏、副議長に見目千絵氏が司会の今野龍二幹事長により選出され、総会の議事に入った。

第一・三議案は長谷川はるか総務部長、第二・四議案は石口榮会計部長から、会計監査の報告は青木栄子監査役から、第五・六議案は会長より報告され、役員の推薦では、加藤右馬氏、見目千絵氏、山中裕子氏が新役員に。そして今村たかし氏が副幹事長より会計監査に異動。また石垣久良氏、佐々木いつき氏の退任も報告された。質疑応答の末、いずれの議案も満場の拍手により承認された。また、議案に引き続き、創立40周年記念事業の進捗状況について、幹事長より報告がなされた。小高沙羅副会長

東京都区現代俳句協会

創立四十周年記念俳句大会

期　　日　令和５年５月２７日(土) 午後２時より
場　　所　アートホテル日暮里ラングウッド
☎ ０３―３８０３―１２３４
記念講演　講師　現代俳句協会会長
「陸」主宰　中村和弘先生
演題　「俳句は、ドキュメンタリードラマ」
講　　評　松澤雅世常任顧問ほか

の「閉会の言葉」で無事お開きとなった。

休憩を経て、お楽しみの「一句持ち寄り句会」が総務部長の司会で開会。川崎果連幹事、石口りんご幹事による披講。句会の点盛りの間、松澤雅世常任顧問による「創立40周年の昔語り」と題された講話。都区協発足当時の生の話。現在第194号を発行している会報の第1号のコピーもいただき、発行人倉橋羊村の名前に歴史を思い、また、当時は「現代俳句協会東京都区協議会」であったことも、ちょうど協会が法人化される今、感慨も一入であった。そして栗原かつ代事業部長による成績発表に歓声。

いよいよ場所を階下の精養軒に移しての懇親会へと。昨年は開催できなかった、また一昨年は総会そのものが紙上となりできなかった懇親会が久しぶりに開催された。司会は中内火星広報部長。まずは幹事長による開会宣言。そして、急用のため来られなくなった中村和弘都区協顧問に代わり、急遽、持ち寄り句会で好成績だった広田輝子幹事により乾杯の発声。ゆっくり歓談した後、参加者の半数以上の人がそれぞれマイクを持ち、簡単な挨拶、あるいは自己紹介、歌もありの楽しい二時間であった。そして瀬藤芳郎企画部長による「閉会宣言」でシメ。

山本敏倖東京都区現代俳句協会会長

大本尚神奈川県現代俳句協会副会長

羽村美和子千葉県現代俳句協会幹事長

加藤右馬議長

見目千絵副議長

【一句持ち寄り句会】

〈特別選者特選句〉

山本敏倖都区協会長特選

言問の春風魂魄乗せたがる　羽村美和子

大本尚神奈川県現俳協副会長特選

発見のまだある八十路青き踏む　広田　輝子

羽村美和子千葉県現俳協幹事長特選

仲見世の春望の色メロンパン　高橋　透水

松澤雅世常任顧問特選

ちぎり絵の一片(ひとつ)が消えて蝶生る　山本　敏倖

小高沙羅副会長特選

おふくろと呼ぶ子がひとり春夕焼　山﨑　百花

今野龍二幹事長特選

永き日の古き手帳の文字を消す　見目　千絵

今村たかし副幹事長特選

地の塩とならむ濁世の梅真白　大本　尚

松田ひろむ顧問特選

すみれたんぽぽ戦場の猫車　青木　栄子

栗原節子顧問特選

発見のまだある八十路青き踏む　広田　輝子

青木栄子監査特選

発見のまだある八十路青き踏む　広田　輝子

ダイゴ鉄哉監査特選

発見のまだある八十路青き踏む　広田　輝子

加藤右馬議長特選

山でもなし平地でもなし遍路道　上野　英一

見目千絵副議長特選

飴細工蛙の恋に目を入れて　松田ひろむ

〈参加作品〉互選高点二十句・以下順不同

1ちぎり絵の一片(ひとつ)が消えて蝶生る　山本　敏倖

2行き先の切符などなく目借時　上野　貴子

3春風の少女象形文字のよう　石口りんご

4発見のまだある八十路青き踏む　広田　輝子

5 雛壇の影に母性といふ重荷　西本　明未
6 菜の花の高さで風になるところ　中内　火星
7 木々芽吹くマスク自由といわれても　江原　玲子
8 青き踏むフリーサイズの服を着て　石口　榮
9 花守の花を見ている花の黙　今野　龍二
10 深みゆく野球の春に胡椒挽く　櫻木美保子
11 春光をもて余しあらフランス座　栗原かつ代
12 飴細工蛙の恋に目を入れて　松田ひろむ
13 仲見世の春望の色メロンパン　高橋　透水

開会前には幹事たちによる準備が行われた。

14 戦争をせぬための基地いぬふぐり　長谷川はるか
15 すみれたんぽぽ戦場の猫車　青木　栄子
16 春の夢ぱんぱん詰めて大提灯　今村たかし
17 海を見て左脳に残る春愁い　蓮尾　碩才
18 永き日の古き手帳の文字を消す　見目　千絵
19 いちにちが普通に過ぎて春の月　栗原　節子
20 地の塩とならむ濁世の梅真白　大本　尚
おふくろと呼ぶ子がひとり春夕焼　山﨑　百花
トルコへの募金の子等へ桜東風　鈴木　光子
浅草の人なつっこいすずめの子　小髙　沙羅
梅一輪記憶に生きる母一人　山中　裕子
仲見世の春助六にすれちがう　北村貞貴子
ワスレテモワスレナクテモスミレサク　川崎　果連
焼鮎の骨抜く技を競い合う　ダイゴ鉄哉
折り紙の小舟ころがり春萌ゆる　伊藤左知子
山でもなし平地でもなし遍路道　上野　英一
言問の春風魂魄乗せたがる　羽村美和子
雁帰る丸く大空ひと抱え　西山夫美子
絶対にああはなるまい猫柳　加藤　右馬
どの物語転がそか萬愚節　瀬藤　芳郎

青い龍眠らせている春の沖　桑田　真琴
装丁の思案のさなか春の地震　大橋　愛子
迂回する人生航路花菜風　宮川　夏
スヌーピー屋根に寝そべる日永かな　讃岐　幸江
春めくやおっとり刀のナノ粒子　榎並　恵那
狛犬の見透かす抱負春うらら　五十嵐秀山
はずすべく真砂女の指輪紫木蓮　磯部　薫子
プーチンの自説撤回春の夢　山口　紀子
悔しさに愛想つきて春落葉　大山実知子
春の波奥底いまも揺るがるれ　松澤　雅世
春光をあまねく凝らし潮だまり　豊島月舟斎
家仕事ハケ置き夏風を楽しむ　吉村　治夫

東京都区現代俳句協会

40周年記念句集完成

頒価4000円（送料別）
参加された方には一冊がお手元に。
また、二冊目以降所望される方には
3000円（送料別）でお頒けいたします。
申込み先：今野龍二
〒121-0813足立区竹の塚1-28-17
TEL. 090－4414－1042

都区協Cブロック吟行会　報告

吟行地　すぎなみ蚕糸の森公園と蓮光寺

令和四年十一月十四日（月）　於・高円寺中央会議室

都内でも朝冷えが聞かれたが、初冬の天候にめぐまれた吟行日和となり、朝10時に杉並区にある蚕糸の森公園に集合した。もともと蚕糸試験場のあったところで、正門にちかいところに枝垂れ桑が残っていた。

ガイドの説明を耳に蚕糸試験場の史跡を辿りながら、次の目的地の蓮光寺へ。蓮光寺はインド独立の運動に活躍した一人であるチャンドラボースにゆかりのある寺院である。ボースの銅像を拝し句会場へ。30名の参加があった。

なお、ガイドと講演はＮＰＯ法人すぎなみ学びの学園理事である岩石隆光（むそむ）氏にお願いした。

（高橋透水記）

《特別選者・特選句》

山本敏倖都区協会長特選

雲にもぐり尻を浮かせる冬の鴨　櫻木美保子

今野龍二都区協幹事長特選

メビウスの輪の恋となり落葉舞う　高橋　透水

長谷川はるか都区協総務部長特選

天竺へ戻れぬ遺灰花ひらぎ　栗原かつ代

石口榮都区協会計部長特選

雲にもぐり尻を浮かせる冬の鴨　櫻木美保子

松田ひろむ都区協顧問特選

落葉踏む他人のような土踏まず　石口　榮

中内火星Cブロック代表特選

旗を振る高橋透水冬帽子　青木　栄子

高橋透水Cブロック事務局長特選

旗を振る高橋透水冬帽子　青木　栄子

磯部薫子Cブロック副事務局長特選

きぬ擦れの音かと落ち葉踏みしめる　上野　貴子

《参加作品》（高点十五句）

1天竺へ戻れぬ遺灰花ひらぎ　栗原かつ代
2落葉踏む他人のような土踏まず　石口　榮
3旗を振る高橋透水冬帽子　青木　栄子
4帰り花盛ん我らは老年時代　櫻木美保子
5蚕糸なる遙かな言葉銀杏散る　広田　輝子
6落葉踏む十五センチの園児靴　石口りんご
7欲いまだ助走中なり冬紅葉　江原　玲子
8柊の咲くや煉瓦はドイツ積み　白石　正人
9桑枯るる蚕糸の森のひとすみに　有馬　歌子
10木枯一号枯れ色をシャッフルし　榎並　恵那
11黄落や見えない鯉の渦ひとつ　山本　敏倖
12きぬ擦れの音かと落ち葉踏みしめる　上野　貴子
13赤と黄の混声を踏む落葉道　高橋　透水
14冬蝶やボースに問はむインパール　川崎　果連
15小春日や少女の像の空に向く　大山実知子

《以下順不同》

バスに乗り落葉一枚遠出する　大橋　愛子
純情商店街帰り寄ろうか冬うらら　赤澤　敬子
紅葉山午後の日差しをころがして　今野　龍二
冬の滝小学校に声湧いて　松田ひろむ
杉並の子等を育てる紅葉風　宮川　夏
枯滝に吹き溜まりをり世の芥　長谷川はるか
保育士の熱き思いや冬紅葉　ダイゴ鉄哉
涸れ滝に横切るもののありにけり　磯部　薫子

橋架けぬチャンドラ・ボース冬帽子　五十嵐秀山
ボースの像インドの冬を開きしと　山﨑　百花
冬紅葉絹のつやめき過去未来　岩石むそむ
秋深し偏食の虫ゐてをかし　瀬藤　芳郎
ひとくちにツバキまたの名をサザンカ　中内　火星
枝垂れ桑蚕糸の森に踏む落葉　長尾　幸子
おいおまえ届かぬ鴨に子は伸びて　見目　千絵
（以上）

Bブロック吟行会〈池上梅園と本門寺〉

令和五年二月二十一日（火）

暖かい日が続いたかと思えばまた寒くなるというまことに天候不順の中、風は冷たかったものの梅日和とも言える程の陽気。昨年七月に予定していた吟行がコロナで流れ、やっとこの日を迎えた。

四十三名の参加者を得て一同大張り切り。

伊東深水ゆかりの梅園、日蓮上人終焉の地本門寺と俳人には句材豊富。名句続出の嬉しい一日だった。

講話は「鷗座」代表の松田ひろむ先生。

「梅にウグイスの秘密・鶯色の秘密」。現代では鶯色と言えば黄緑色を思い浮かべるが、これはウグイスの色ではなくメジロの色。本当のウグイスは灰色がかった緑褐色。ではなぜこの様な間違いが生じたのか。

江戸時代と今の生活様式からくる勘違いなのではないか。現代とは違い江戸時代にはウグイスもメジロも飼い鳥として身近なものだった。江戸時代から現在に至るまでを風俗、絵画、先達の俳句などを踏まえての、目から鱗の内容の濃い時間を頂いた。

《特別選者・特選句》

山本敏倖会長特選

香でわかる一枝千の梅の花　中内　火星

小高沙羅副会長特選

あの時も梅あの時も梅満開　大橋　愛子

松田ひろむ顧問特選

盆梅や入園切符の窓から手　讃岐　幸江

今野龍二幹事長特選

あの時も梅あの時も梅満開　大橋　愛子

今村たかし副幹事長特選

蛇穴を出て広すぎる本門寺　石口　栄

長谷川はるか総務部長特選

龍の目に我が煩悩は春の塵　宮川　夏

石口榮会計部長特選

紅梅の遠く深空を奪いあう　磯部　薫子

中内火星広報部長特選

新設の「だれでもトイレ」梅真白　石井　誠子

栗原かつ代事業部長特選

やっかいな自尊心なり梅真白　江原　玲子

瀬藤芳郎企画部長特選

園児らのほっほっほけきょ春の風　高矢　実來

宮川夏組織部長特選

日蓮の半眼闇に春を待つ　豊島月舟斎

磯部薫子研修部長特選

飛び石のいくつ五つや座論梅　増田　萌子

《参加作品》

1蛇穴を出て広すぎる本門寺　石口　栄

2百歳まではどうぞよろしく臥竜梅　小髙　沙羅

3ただ「ウメ」と書かれし古木冴え返る　広田　輝子
4白梅や飛んで逢ひたき人ひとり　山﨑　百花
5コロナ禍へ空手チョップだ春なんだ　石口りんご
6龍の目に我が煩悩は春の塵　宮川　夏
7やっかいな自尊心なり梅真白　江原　玲子
8座論梅命みじかし恋せよと　栗原かつ代
9園児らのほっほっほけきょ春の風　高矢　実來
10脇役のその一その二名草の芽　青木　栄子
11盆梅や入園切符の窓から手　讃岐　幸江
12あの時も梅あの時も梅満開　大橋　愛子
13水はいま如月の木を登らんと　町野　敦子
14春寒や僕もタイツの力道山　前田　友彦
15日蓮の半眼闇に春を待つ　豊島月舟斎
16天と地をむすぶ雪吊り百の縄　石田　弥生
17ただ座る春のいぶきの只中に　瀬藤　芳郎
18日溜りの親しさあつめ座論梅　垂井　道夫
19ゆっくりともの言うものに梅の花　櫻井　了子
20戻り寒「未完の龍」の青に聞く　見目　千絵
梅の香の遠近を聞く仁王門　山本　敏倖
煩悩は即菩提かな枝垂れ梅　松田ひろむ
梅咲いて心許なきごまおはぎ　今野　龍二
腕を組む力道山に涅槃西風　今村たかし
白梅のひとひらずつを聞いている　櫻木美保子
新設の「だれでもトイレ」梅真白　石井　誠子
紅梅の遠く深空を奪いあう　磯部　蕙子
眼のなかに紅梅咲かせ恋を識る　高橋　透水
題目の髭文字撫でて梅の風　安藤　草太
水琴窟はブラームスかしら木の根開く　増田　萌子
杖をつく梅見疲れの右の甲　森銅　昭夫
池上の紅白枝垂天を衝き　神田　千風
雪吊の奏でる今日の梅日和　ダイゴ鉄哉
妙法の読経に揺るる枝垂梅　湯澤喜久雄
出迎える梅の白さや本門寺　山中　裕子
梅ケ香や飛梅となり西へ行く　見岡　ゆみ
凍返る思はず手摺より離れ　白石　正人
白梅の茅舎の黙に問いかけぬ　五十嵐秀山
南無妙法塔婆鳴らして春北風　長谷川はるか
香でわかる一枝千の梅の花　中内　火星
参道の甘味処や梅三分　榎並　恵那
枝垂梅元気な風に負けまじと　上野　英一
よみがへりし焦土の寺や福寿草　川崎　果連

（青木栄子記）

春の吟行&通信句会のご案内

次の要領で実施します。奮ってご参加を。

実施日　令和五年六月十四日(水)

吟行場所　神楽坂周辺（受付後、自由吟行）

《見どころ》大老（酒井忠勝）の登城道が現在の「神楽坂通り」の原型。明治以降、沿道は武家屋敷から有数の花柳界のある盛り場へ。江戸の名残の史跡や商店が軒を連ねる観光スポットに。坂には華やいだ空気が漂っています。

集　合　午前十一時。地下鉄東西線
神楽坂駅1番出口改札（飯田橋寄り）

参加申込　事務局宛　葉書・FAX
参加者氏名・住所・電話番号明記

会　費　千円（通信費・賞品代）

申込締切　六月十三日(火)

投　句　嘱目2句

出句締切　六月二十七日(火)　必着
事務局宛　葉書・FAXで

選　句　後日、作品集を送付し、選句していただきます。互選、特別選者選により、入賞者を決定します。

顕　彰　都区協会報に結果を発表し、入賞者に賞品を送付します。

事務局　企画部　瀬藤芳郎
〒177-0051　練馬区関町北4-16-45
☎・FAX 03-3929-5883

東京都区現代俳句協会

創立四十周年記念事業基金募集のお願い

令和五年五月二十七日に記念俳句大会並びに祝賀会を開催いたします。

つきましては左記の通り基金募集をしておりますので、会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

一口　一〇〇〇円（何口でも結構です）

記念大会実行委員長　山本　敏倖

◆◆◆

振込番号

00110・5・539619

加入者名　東京都区現代俳句協会

＊同封の振替用紙をご使用願います。

＊ネット振込み利用可。

郵便振替払込受領証にて領収書に代えさせて頂きます。

基金担当　石口　榮

創立四十周年記念事業基金寄付者芳名

（令和五年二月末日分まで・敬称略・順不同）

ご支援ご協力を深謝申し上げます。

五十口　青木　栄子

三十口　山本　敏倖　松澤　雅世　松田　抱空

二十口　松田　抱空　栗原　節子　今野　龍二

石口　榮　長谷川はるか　西本　明未

対馬　康子　小髙　沙羅　林　暁兵

赤澤　敬子　高橋　透水　櫻木美保子

中本　勝美　小檜山繁子　加茂　一行

池田　澄子　西本　明未　佐怒賀正美

広田　輝子　阿部　晶子　なかすぎ会

匿名

五口　石口りんご　北村眞貴子　松田ひろむ

白石みずき　次山　和子　佐藤　洋子

相沢　幹代　川崎　果連　小平　湖

石綿　久子　鋤柄　杉太　瀬藤　芳郎

讃岐　幸江　坂本　君江　今村たかし

鋤柄　杉太　鍬守　裕子　木村　順子

長尾　幸子　宮原　光女　花田　由子

大勝すみ子　石川登志子　上野　英一

四口　佐々木いつき　山口　紀子　佐竹いさお

三口　関根　誠子　戸栗　愛　上野　貴子

大里　卓司　山崎　百花

斎藤　藍　大山実知子　匿名

伊藤二三子　栗原かつ代　大橋　愛子

渡部　愛子　磯部　薫子　石川　貞夫

早瀬　恵子　栗原かつ代　江原　玲子

鈴木　光子　宮川　夏　大山　夏子

鷲　ケイジ　伊達　公子　大山実知子

三輪　初子　吉野　敏子　石川　貞夫

加藤千恵子　関戸　信治　千明　素子

長谷川栄子　江原　玲子　鈴木　光子

渡部　愛子　菊池ひろこ　猪瀬　尚志

阿部　周二　山口　昭義　小原　澄江

森銅　昭夫　遠藤　久子　匿名

二口　遠藤　久子　伊丹　啓子　圓山二幸子

勝山　京子　馬場　佳世　中村　誓子

佐藤　道子　匿名

一口　一井　魁仙　平北ハジム　山地春眠子

匿名　匿名　匿名　匿名　匿名

匿名　匿名　匿名　匿名　匿名

※氏名の重複は複数の寄付によるため。

第三十一回高田馬場「冬」句会報
令和五年一月十日（火）
兼題「水仙・雪中花」・席題「鏡」

今回、感染者の状況を見て無事句会を開催することが出来ました。二十四名の方に参加していただき感謝申し上げます。

1基地つくる土に遺骨や野水仙　川崎　果連
2束ねても水仙向きを変えたがる　石口　榮
3人間を遠ざけている野水仙　今野　龍二
4級長の君が遠いよ水仙花　赤澤　敬子
5鏡へと迷いこむ母年女　西本　明未
6鏡には違ふ私が小正月　長谷川はるか
7紅のない化粧に慣れて初鏡　小髙　沙羅

（以下順不同）

ひっそりと割れておるなり鏡餅　磯部　薫子
先ず眼鏡とりたがる嬰初笑い　広田　輝子
肩凝りや鏡の中に雪の降る　櫻木美保子
リハビリの妻ひざまずき水仙花　安藤　利亮
晩節をこよなく愛し雪中花　宮川　夏
毛糸編む「鏡子の家」にこじらされ　相沢　幹代
初鏡まづ抱擁を映しけり　高橋　透水
白水仙コサック兵のなみだ受け　蓮尾　碩才
若狭には名刹あまた雪中花　上野　英一
鈍色の鋏止めや水仙花　林　ひとみ
水仙のさっちゃんサチコけんけんぱ　松田ひろむ
波音を抱く群れあり野水仙　江原　玲子
寒四郎鏡へ息を吐いてみる　見目　千絵
水仙や皇居散歩の良き日和　大橋　愛子
温もりは八束好みの雪中花　松澤　雅世
野水仙ウオーキングの歩をゆるめ　山口　紀子
俯けるフィギュアの剣士水仙花　白石　正人

今回も自由に意見を交換し合えるとても楽しい句会でした。心より感謝申し上げます。どうぞお元気でお過ごし下さい。

（宮川　夏記）

高田馬場「夏」句会のご案内

日　　時　令和五年七月四日（火）
午後十二時半受付開始
会　　費　千円
会　場　所　JR高田馬場駅前FIビル8階
兼　　題　「万緑」
席題は当日掲示
句会内容　二句投句・互選六句内一句特選
参加申込　宮川　夏（定員二十八名）
TEL 080-3452-2577
Fax 03-3339-9841
（☆自分の氏名をお書き添えください）

スクランブル通信句会

三句投句・一〇〇〇円
六月二十日締切
榎並恵那
TEL/FAX：03-6324-2023
メール：enasan_1948.2.19@kbh.biglobe.ne.jp

編集後記

▼昨年七月に予定していたBブロックの多摩川周辺吟行会がコロナ感染の大波に当り中止になった。そのリベンジが本年七月に行われる。詳細は会報では間に合わないので、チラシなり、Bブロックの担当者に訊いてください。▼六月には春季吟行会、八月にAブロック吟行会、九月は秋季吟行会、十月はDブロック、十一月はCブロックと、40周年記念俳句大会以降、吟行会が目白押し。▼きっと気が付けばクリスマス。師走。新年。皆様のご健康とご健吟をお祈り申し上げます。

（火星）

広報部・編集室
〒150-0013 渋谷区恵比寿
二―三三―五―二〇二　中内火星方
TEL・FAX　〇三―三四四〇―四四七九
Eメール　ham@mx3.ttcn.ne.jp